

オンライン開催

生きている本と対話する図書館

ヒューマン ライブラリー

@ 「みんなの学校ごっこ in 東山 2021+」

無料

☆ヒューマンライブラリーとは☆

2000年にデンマークの若者たちが、北欧最大の音楽祭で始めた「人を貸し出す図書館」です。多様なバックグラウンドをもつ人たちが「本」になり、参加者の「読者」に経験を語り、対話をするすることで、お互いの理解を深めるこの「図書館」は、現在では90か国以上で開催されています。

小さな図書館ですが、世界に1冊だけの本がそろっています。
あなたの生き方のヒントが見つかるといいな♪

京都市東山いきいき市民活動センターが主催する『みんなの学校ごっこ』の3時間目～5時間目に『ヒューマンライブラリー』を実施します。

日時：2月20日（土）

3時間目（13:30～14:30）読書時間①

4時間目（14:40～15:40）読書時間②

5時間目（15:50～16:50）あとがき（振り返り）

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

この図書館では、3時間目に3冊、4時間目に4冊の「本」をご用意しました。

次ページのブックリストからお好きな本をお選びください。

どちらかの時間に1冊だけでもよいですし、2時間で2冊読むこともできます。

「本」1冊につき、「読者」の定員は6人です。

図書館の「司書」が各グループの読書の案内と進行をします。

5時間目の「あとがき」は、全体で「本」と「司書」の感想を共有します。「読者」の方は参加自由です。



☆この企画は Zoom を利用したオンラインで実施します。

【詳細と申込】東山いきいき市民活動センターのHPから2月18日（木）までにお申し込みください。

<https://kyotohigashiyamaik.wixsite.com/minnano2021>

みんなの学校ごっこ in 東山 2021+

主催：京都市東山いきいき市民活動センター

共催：京都文教大学地域志向教育研究ともいき研究助成事業

「障がい当事者の多様な個性や才能を活用した教育とまちづくりに関わる実践的研究」

ヒューマンライブラリー

企画：学生団体SMILE

エイブル・パフォーマンス集団『ガラ(柄)』

協力：公益財団法人京都市ユースサービス協会

株式会社 hitajico

☆ブックリスト☆

○3 時間目 (13:30~14:30) の本紹介

No.	タイトル	作者名 (所属)	あらすじ
1	東日本大震災がなかったら	川崎杏樹 (釜石市「いのちをつなぐ未来館」職員)	2011年3月11日に発生した東日本大震災。あの日にもし、地震と大津波が来ていなかったら私はどんな人生を送っていたのか。ふとそんなことを考えるときがあります。震災が起きてよかったなんて言えませんが、震災のおかげで気が付いたこと、学んだこと、出会えた人などがたくさんあります。震災を経験した私がどのような思いでこれまで過ごしてきたのか、お話をしたいと思います。
2	病気が私に与えたもの	たき (起立性調節障害当事者団体たいむ 代表)	小学3年生の時私は起立性調節障害と診断された。中学は3年間通えず高校は夜間高校に進学した。朝体調が悪く昼には元気になる。そんな病気だから仮病と言われることもあった。大学生になった今、私には病気がきっかけで出会えた人、出会えた環境がある。病気で苦しむこともあったが、病気が私に与えたものもあった。病気=つらいことだけじゃないことを伝えたい。
3	苦しみとともに、どう生きるか?	ひろし&kazu 共著/対談 (エイブル・パフォーマンス集団『ガラ(柄)』)	○「生きているだけでいい!!」(ひろし) 交通事故による3度の臨死体験、その後遺症である歩行障害やパニック障害、またC型肝炎、心臓手術と様々な障害を抱え、いま生きているのが奇跡だと思います。長いリハビリを乗り越え、偏見と闘うも、笑って生きてきた58年を話します。 ○「私のままで生きることにした」(kazu) 特別な何者か(ヒーロー)であろうとしましたが、気づけば世界を救うどころか自分を救う事に必死になってしまいました。うつ病になって18年、抱え込んだ荷物を一つずつ降ろしていく、そんな「降りていく生き方」を話します。

○4 時間目 (14:40~15:40) の本紹介

4	津波のあとに残ったもの	菊池のどか (釜石市「いのちをつなぐ未来館」職員)	東日本大震災から10年が過ぎようとしている。津波は、多くの人々の生活や価値観を変えていった。私自身も、翻弄された。震災直後、最初は教科書すらなかった高校生活、ボクシングが心の支えだった。故郷のために生きるべきか?自分のために生きるべきか?様々な葛藤があり、多くの人と出会い、この10年間を生きてきた。
5	「きょうだい」を知った日~障害のある弟の姉としての私~	とくちや (秋田在住 きょうだいの時間~Zoom会~)	「弟は話せないけれど…」弟の存在は、私の人生の中で必要不可欠です。皆さんは「ヤングケアラー」や「きょうだい」という言葉を知っていますか?周りにいますか?「きょうだい」である私が“弟のせい”と“弟のおかげ”で得ることができた、社会人になるまでの経験や葛藤、夢についてのお話。
6	舌先三寸車いすユーザー、地域活動只今奮闘中!!	マメ (エイブル・パフォーマンス集団『ガラ(柄)』)	この物語は、常に車いすユーザーとして暮らす中での自らの体調管理・協働する地域の方達との関わり方について現実と理想にもがいている舌先三寸車いすユーザーの奮闘記です。
7	障害者になったら楽しいことが増えた!	YOSHIO (エイブル・パフォーマンス集団『ガラ(柄)』)	障害者になった当初は、自殺を真剣に考えたが、四肢まひのため死ぬ手段すらなく、現実逃避という形で自分自身を保っていた。時の経過とともに、いろいろな人たちとの出会いもあって、前向きに考えるようになった。できないことは増えたが、できないことが原動力となって、できることが増え、旅行のほか、趣味も非常に多く、人生を大いに楽しんでいる。